竜北中図書館通信

令和２年１０月（文責：本田）

☆ハロウィン大作戦～読書の秋がやってきました～

１０月に入り、朝夕めっきり肌寒くなってきました。

図書委員会では、秋の夜長、皆さんに読書に親しんでもらおうと思い、『ハロウィン大作戦』をすることにしました。

内容は、１０月５日～９日の１週間、読書啓発として本を借りに来た人に、アニメのイラストが入ったしおりを渡します。

一人でも多くの人が図書館に本を借りに来てくれるきっかけになったらと考えました。５０枚準備しましたので、先着５０名までもらうことができます。ぜひ本を借りて、読書の楽しさを味わって下さい。

☆2020・第74回読書週間（10月27日～11月9日）

標語『ラストページまで　駆け抜けて』

（作者のことば）　野呂美由紀氏

物語に引き込まれ、ラストまで駆け抜ける。早く走り抜けても、のんびり歩いても。本は自分のペースで読み進められます。道のりが困難でもゴールは待ってくれている。あなたを待ってくれている物語がきっとあると思います。

貧（まず）しい若者（わかもの）が、手（て）にしたわらしべの先（さき）に、アブをくくりつけ歩（ある）いていると、見（み）ていた牛車（ぎっしゃ）の中（なか）の若君（わかぎみ）がそれを欲（ほ）しがり……。

下（した）の２枚（まい）のイラストには５つのまちがいがあります。いくつ見（み）つけられるかな？

答え

① 鳥

② えぼし

③ 牛のひもの重なり方

④ 牛の飾りの数

⑤ 弓の長さ

よかったら、よんでみてね

『虹いろ図書館のへびおとこ』

櫻井　とりお・作（河出書房新社）

転校してきて間もないほのかは、ある日の放課後、かおり姫に誘われた。かおり姫とは、本当の名前はかおりだけど、みんなからかおり姫と呼ばれている。いつも自信満々で、成績も良さそうだし、着ている服もいい服だからだ。

放課後、かおり姫に誘われて行ったところか、古い図書館だった。その図書館に入ると、一人の背の高い男の人がいた。

『日本俗信辞典 （動物編）』

鈴木　棠三　・作（角川ソフィア文庫）

「ネコが耳の後ろをかくと雨」「食後すぐ寝るとウシになる」「ミミズが出ると、天気が良くなる」・・・日本全国に伝わる言い伝えや迷信を徹底的に収集し、項目ごとに分類されています。

由来・俗信は、前代人がもっていた一行知識のようなものであり、散発的になっていた民俗学の知識がわかりやすく整理されています。ちょっとした豆知識が披露できるかもしれません。

『帝都妖怪ロマンチカ （狐火の火遊び）』

真堂　　樹　・作（集英社文庫）

昭和３年の東京。折原嘉寿哉は、さまざまな怪異現象を心理学の見地から研究する変態心理学者である。

ある日嘉寿哉の家に、女学生の琴枝が相談をしにやってきた。なんでも真夜中の学校に、火の気のないところで炎がちらつくという。それは清純女学館はじまって以来の大椿事であった。調べてみると、その学校の地域では、昔から大晦日に３３ヶ国から狐が集うという王子稲荷の伝説があるのだが・・・。

『目で見るＳＤＧｓ 時代の環境問題』

ジェス・フレンチ・著（さえら書房）

いま、SDGｓ（エス・ディー・ジーズ）時代をむかえています。

SDGｓとは、２０３０年までに世界を変えるための１７の目標のことです。たとえば、人類はいま、かつてないほどの大量のゴミを出し、地球を苦しめています。地球にとってゴミがどのような影響をあたえているのか気づいたら、SDGｓへの取り組みの第１歩となります。

一人ひとりの小さな努力の積み重ねで、世界を変えることができます。